

第16回 薬害根絶デー 記録集

2015年8月24日

薬害根絶デー実行委員会

11:45～ 厚労省前リレートーク

13:00～ 碑の前行動

14:00～ 集会 @日比谷図書文化館

(1) サリドマイド

・被害の概要

佐藤嗣道（公益財団法人いしずえ理事長）

・被害者のお話

石井美和（同いしずえ理事）

(2) HPV（子宮頸がん）ワクチン

・被害者のお話

・全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会報告（代表松藤美香）

・HPVワクチンの問題点（関口正人弁護士）

(3) 全国薬害被害者団体連絡協議会（薬被連）報告

(4) 薬害対策弁護士連絡会（薬害弁連）報告

(5) 学生報告・行動提起

17:30～ 街頭宣伝 @有楽町マリオン前



薬害根絶デーとは

1999年8月24日、厚生省は薬害エイズ事件を反省し、薬害再発防止を決意する「誓いの碑」を庁舎正面に建立しました。

翌年からこの日を「薬害根絶デー」とし、薬害被害者の団体「薬被連」が国と交渉をおこなっています。この行動に合わせて薬害根絶デー実行委員会では、リレートーク、集会、街頭宣伝などをおこないます。

目次

薬害根絶デーとは	1
薬害の歴史	2
サリドマイド事件の概要と被害者の今	4
サリドマイド被害者・石井美和さんのお話	12
HPV ワクチン(子宮頸がんワクチン)の問題点	15
HPV ワクチン(子宮頸がんワクチン)被害問題全面解決要求書	17
薬被連とは	19
2015年度 学生活動報告	20
行動提起	22
参考資料	23

●全国薬害被害者団体連絡会議（薬被連）

1999年10月、それぞれの薬害の被害者団体がその枠を超え、共通の目的である「薬害根絶」を実現するために結成。悲惨な被害体験を語り継ぐとともに、薬害防止システムや被害者救済制度の創出、健全な医療社会の実現を目指し、研究、提言、その他の活動に取り組んでいます。

(<http://homepage1.nifty.com/hkr/yakugai/>)

<薬被連加盟団体>

いしずえ（サリドマイド福祉センター）／イレッサ薬害被害者の会／MMR被害児を救援する会／大阪HIV薬害訴訟原告団／東京HIV訴訟原告団／スモンの会全国連絡協議会／京都スモンの会／薬害ヤコブ病被害者・弁護団全国連絡会議／陣痛促進剤による被害を考える会／薬害筋短縮症の会／薬害肝炎訴訟原告団

●薬害対策弁護士連絡会（薬害弁連）

2005年8月24日の薬害根絶デーに発足。

わが国で繰り返される薬害事件とその度に提起される薬害訴訟。これら薬害事件や薬害訴訟を解決するために、訴訟上の課題や法廷外の諸課題についての経験交流や研究、相互支援を強化する目的で組織された。薬害訴訟弁護団に携わっている弁護士を中心に70名近い弁護士が参加しています。

●薬害根絶デー実行委員会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-19-7 新花ビル 6階 オアシス法律事務所内

Facebook ページ <https://www.facebook.com/yakugai824>

薬害の歴史

(ただし主なもの)

◆ 1948年 京都・島根ジフテリア予防接種禍

伝染病ジフテリアの予防接種を受け、京都で68人が死亡。606人に発熱や嘔吐、注射部分が腫れてケロイド状の跡が残るなどの症状が見られた。島根県でも同月に16人が死亡、324人に同様の症状が出た。

◇ 1956年 ペニシリンショック

1956年、東京大学法学部の尾高朝雄部長が歯科医院で歯を抜き、抗生物質のペニシリンを注射されショック死した事件。

◆ 1961年 サリドマイド

鎮静・睡眠剤サリドマイド（日本では胃腸薬にも配合）は、当初副作用も少なく安全な薬と宣伝され発売された。その後、これを服用した妊婦から手足や耳に奇形をもった子どもが生まれた。被害児は、世界で数千人、日本で約千人（認定309人）。日本では61年のレントツ博士（ドイツ）の警告にもかかわらず、販売を継続し、被害が倍増した。

◇ 1967年 ストマイ

抗結核薬ストレプトマイシンにより、難聴障害（ストマイ難聴）などが多発した。

◆ 1970年 種痘禍

天然痘の予防接種後に、脳炎を起こす被害が多発した。被害者の多くは乳幼児で、死亡ないし脳機能喪失の重篤な被害が生じた。

◇ 1970年 コラルジル

冠血管拡張剤（心臓の薬）コラルジルによって、肝臓障害および血液異常をきたす患者が多数発生（死亡者あり）した。被害者千人以上。

◆ 1970年 スモン

60年代から下肢のマヒや視力障害などの末梢神経障害が多発。64年に症状の英名の頭文字をとりスモン(SMON)と命名。70年に整腸剤キノホルムが原因とされるまでウィルスによる伝染病と疑われ多数の自殺者が出た。被害者約1万2千人。製薬企業は35年のバロス警告（アルゼンチン）を無視し、戦後整腸剤として大量販売した。

◇ 1971年 クロロキン

抗マラリア薬、抗炎症薬クロロキンによる視力障害（クロロキン網膜症）。被害者は千人以上。

◆ 1973年 筋短縮症

幼児、小児への筋肉注射（大腿四頭筋、三角筋、臀筋）によってその部位が伸びなくなり、膝や肩、腰の関節が曲がらなくなる症状が相次いだ。被害者9千人以上。

◇ 1975年 三種混合（DPT）ワクチン禍

ジフテリア（D）、百日咳（P）、破傷風（T）を予防のための混合ワクチンの接種の副反応により、脳症などの被害が発生した。

◆ 1975年 クロマイ

抗菌剤クロラムフェニコールによる再生不良性貧血が7年以上にわたり発生。

◇ 1983年 薬害エイズ

米国買血由来非加熱製剤を使用していた日本の血友病患者等約5千人がHIV（エイズウィルス）に感染し、感染者約1500人のうち583名が死亡した。生存被害者も重複感染したC型肝炎を抱え、厳しい闘病生活を余儀なくされている。国は、当時安全な国内血漿の利用や加熱製剤の早期導入を行わず被害を放置した。

◆1988年 陣痛促進剤

70年頃から、陣痛促進剤の安易な使用による母親の死亡、子宮破裂、弛緩出血、胎児死亡、新生児仮死による脳性マヒなどが、被害者団体が把握しているだけで150例以上発生。ただし、これは氷山の一角といわれている。

◇1989年 予防接種後肝炎

数百万人ともいわれるB型肝炎、C型肝炎の患者・感染者の多くが、明治から80年代にかけての集団予防接種での連続注射によって完成したと推定される。

◆1989年 新三種混合(MMR) ワクチン禍

89年に導入された、はしか(M)、おたふくかぜ(M)、風疹(R)を予防する新三種混合ワクチンの副反応により、約2千人の幼児に無菌性髄膜炎や脳症などが発症。死亡や重篤な後遺症が残ったりした。危険性が指摘されていながら予防接種を5年間強行したことで被害が拡大した。

◇1993年 コスモシン

抗生物質コスモシンにより皮膚障害などが発生。

◆1993年 ソリブジン

帯状疱疹の治療薬ソリブジンとフルオロウラシル系抗がん剤の併用により、15人が死亡。

◇1996年 薬害ヤコブ病

脳外科手術の際に使用されたヒト乾燥硬膜(ドイツから輸入)がプリオンに汚染されていたために、100名以上がクロイツフェルト・ヤコブ病を発症し植物状態の後に多数が死亡。米国では87年にこの製品の輸入を禁止したが、日本の使用禁止は97年だった。

◆2002年 薬害肝炎

出産時や外科手術時の出血、新生児出血症などに、フィブリノゲン製剤や第IX

因子製剤などの血液製剤を投与され、多くの患者がC型肝炎ウィルス感染被害を受けた。1980年以降にフィブリノゲン製剤の投与を受けC型肝炎ウィルスに感染した被害者は1万人以上といわれている。

◇2002年 薬害イレッサ

「副作用のない夢の新薬」として世界で初めて日本で承認された肺がん治療薬イレッサによって、間質性肺炎など重篤な副作用を発症。2002年の承認以来少なくとも847人の死者がでている(2012年3月末現在)。

臨床試験で延命効果が確認されない一方、現在も使用が継続されており、今なお被害が拡大している。

◆2006年 タミフル

インフルエンザ治療薬タミフルによる副作用例が、企業の報告でも異常行動186名、転落26名、死者数70名も報告されている。

◇2013年 子宮頸がんワクチン

4月に定期接種化されたが、接種後の重篤な副反応報告が相次いだことから、6月には積極的な接種勧奨を一時差し控え。

サリドマイド事件の概要と被害者の今

2015年8月24日
公益財団法人いしずえ
(サリドマイド福祉センター)
佐藤 嗣道



サリドマイドは1950年代末から60年代初めに、世界の40カ国以上で販売された鎮静・催眠薬です。

この薬を妊娠初期に服用すると、胎児の手/足/耳/内臓などに奇形を起こします(この副作用を催奇形性といいます)。

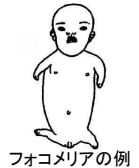
サリドマイドの催奇形性により、世界で数千人~1万人、日本で約千人の胎児が被害にあったと推定されています(死産を含む)。日本では生存した309人の被害者が認定されています。

サリドマイド被害者の数

	出生	死産を含む	流産を含む
ドイツ	3,000		
英国	350		
日本	309	約1000	
スウェーデン	120		
カナダ	120		
ブラジル	100		
イタリア	90		
台湾	30		
...			
合計	約5000人	約10000人	約20万人?

サリドマイドの催奇形性

- 過敏期
 - 妊娠初期3ヶ月間
 - とくに最終月経後およそ30~60日
 - 1回1錠の服用でも障害が起こる
- 症状(サリドマイド胎芽症)
 - 四肢の障害
 - 両上肢がない
 - フォコモリア(肩から手が出ている)
 - 上肢が短い/橈骨がない
 - 指の本数が足りない/親指が小さい
 - 耳と顔面の障害
 - 難聴、耳たぶがない/小さい
 - 顔面神経の不全麻痺
 - ワニの涙症候群(摂食時に涙が出る)
 - デュアン症候群(眼球の運動制限)
 - 内臓の障害
 - 心臓疾患、消化器の閉塞・狭窄、ヘルニア、胆嚢や虫垂の欠損など



フォコモリアの例

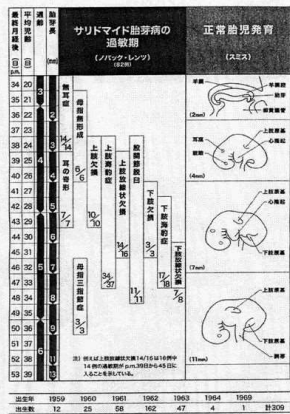


耳の障害の例

図の出典:「多発性骨髄腫に対するサリドマイドの適正使用ガイドライン」

サリドマイドの服用時期と症状(ノバック、レントンによる)

・服用時期により症状が異なる



本誌編集部「サリドマイドと奇形」138頁図、増田三三郎編『サリドマイド-科学史的証言』東京大学出版会(1977年)、転載許可済。

サリドマイド薬害事件は日本でなぜ起きたのか?

- 1957年、大日本製薬(現在:大日本住友製薬)が独自に製造し、厚生省に許可申請。
 - 不十分な動物実験。日本での臨床試験はなし。
- 厚生省の審査と承認
 - 簡易な審査
 - 包括建議: 当時は、海外で使用されている有名医薬品については簡易な審査でよいとの慣習があり、サリドマイドはわずか1時間半の簡単な審査で承認された。
 - しかし、審査の段階では、西ドイツでも発売前であり、海外で使用されている有名医薬品との認識は誤っていた。

サリドマイドの発売

- 1957年、西独グリュネンター社が発売。
 - 商品名「コンテルガン」(鎮静催眠剤)。
 - つわり止めにも使用された。
 - 成人の副作用として、末梢神経障害(手や足のしびれ、など)が起こることが報告されたが、重要視されなかった。
- 以後、世界約40カ国以上で販売。

日本での許認可



1970.11.5 朝日

9

日本での販売

- 1958年、睡眠薬「イソミン」発売。
- 1960年、胃腸薬「プロバンM」に配合。
 - 妊婦がつわり止めとして服用する機会が増え、被害が拡大した。
- 医療用薬のほか、大衆薬として街の薬局でも販売

10

米国での審査

- 1960年、米国FDA (Food and Drug Administration)、サリドマイド剤を認可せず。
 - 担当官:ケルシー
 - 胎児への影響に関するデータがない。
 - アメリカ国民を薬害から守ったとして、ケネディ大統領から表彰される。
 - President's Award for Distinguished Federal Civilian Service (連邦政府の公務員として特別な働きをした人に、大統領から贈られる賞)



11

宣伝と販売の拡大

- 「完全無毒」、「妊婦にも安心」



12

ドイツでの調査とレント警告

- それまでほとんど見られなかった新しいタイプの新生児の奇形が1959年頃から恐るべき勢いで増加していることが報告された。
- 何らかの化学物質が原因?
- レント博士による調査(1961年11月初旬～)
 - ハンブルク大学小児科の医師。人類遺伝学者。
 - 最初に訪問した3人の奇形の子供の家庭で、いずれも母親がサリドマイドを服用していた
- 1961年11月18日 レント警告
 - 小児科学会(地方会)の席上で、ある大衆薬が奇形の原因と疑われることを報告。

13

レント警告の根拠となったデータ

妊娠初期におけるサリドマイドの服用	奇形の子供	健全な子供
あり	17	0
確認できず	3	20*
計	20	20

*うち1人は妊娠後期に服用

レント警告(1961/11/18)

- 小児科学会(地方会)席上での発言

「人間としても、市民としても、私は自分の観察した事実について沈黙を守ることが、無責任なことと考えます。これが、人間的、心理的、法的、金銭的に計り知れない結果を伴うかもしれないことを考えて、私は小児科医、薬理学者と各々相談した後、メーカーに私の観察結果を知らせ、また無害性が確実に立証されるまで、この薬を直ちに回収すべきであるという私見を伝え...」、「これらの排除が1か月遅れるごとに、甚だしい奇形児は恐らく50ないし100名増えることになるでしょう」

日本語訳の出典: 栢森良二「サリドマイド物語」. 医歯薬出版, 1997.

15

レントの調査結果(1962)

母親の妊娠初期におけるサリドマイドの服用	症例 奇形の子供	対照 健全な子供
あり	90	2†
確認できず	22*	186
計	112	188

* 22例のうち妊娠初期のサリドマイド使用が明確に否定された例はなかった。

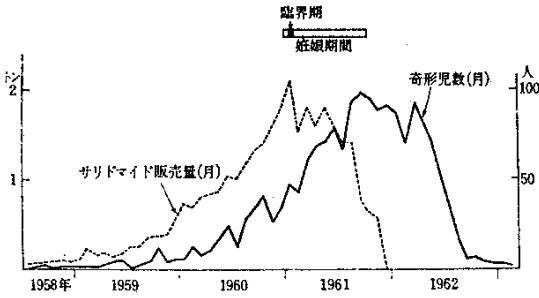
† 2例とも服用の時期は不明(注: 症例と同じ基準を用いれば「確認できず」に分類すべき)。

- 症例におけるサリドマイドの使用割合: $90/112=80.4\%$
- 対照における使用割合: $2/188=1.1\%$

16

レントツ警告後の対応

- 西ドイツ
 - 11月25日にサリドマイドを市場から回収することを決定
- ヨーロッパなど西欧諸国
 - 西ドイツと同時期に販売停止・回収
- 日本
 - 厚生省「レントツ警告には科学的根拠がない」
 - 新たに別の1社に製造承認
 - 大日本製薬: 販売の主力を睡眠薬から胃腸薬に切り替えて宣伝



サリドマイド販売量と奇形児出生数の変化。1959年から1962年にかけて、西独での販売量と異常児数との間にはきわ立った関係がみられる。妊娠期間を考慮すると、二つの山はよく重なる。

17

18



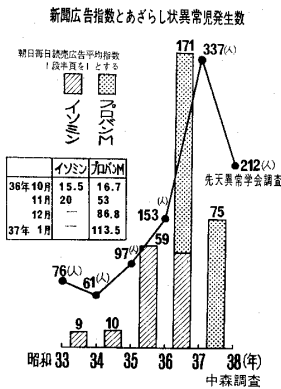
1971.11.5 毎日

19



1973.2.2 読売

20



21

日本での販売停止

- 1962年
 - 8.26 北海道大学、梶井講師が日本でのサリドマイド児の症例を発表
 - 9.13 大日本製薬、サリドマイドの販売停止・回収を発表
 - 西ドイツなど諸外国(1961年11月)から遅れること10ヶ月
 - 回収も不徹底
 - 販売停止・回収の遅れにより被害が倍増

22

日本における 出生年別のサリドマイド被害者数

生年	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1969	計
被害者数	12	25	58	162	47	4	1	309

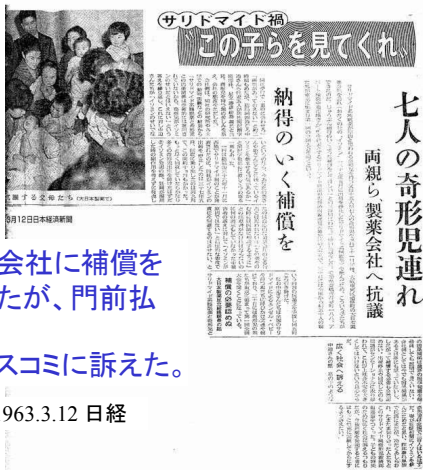
↑
レントツ警告

レントツ警告時に対策をとり、回収を徹底していれば、1962年9月生まれ以降は被害にあわなかったはず。

人災

サリドマイド訴訟といしずえの設立

24



製薬会社に補償を求めたが、門前払い。
→マスコミに訴えた。

1963.3.12 日経

25

- 1963年、最初の提訴(名古屋地裁)
- 以後、全国8地裁で提訴

被告の国と製薬会社は、因果関係と責任を否定して争った



1965.11.13 読売(夕)

26



1971.1.28 朝日(夕)

27



1971.9.13 朝日

28



1971.10.10 社会新報

29



1971.11.2 毎日

30



1973.10.17 朝日(夕)

31



1973.12.8 サンケイ

32



1973.12.24 朝日

33



1974.10.14 東京

34

サリドマイド訴訟の和解(1974)

- 国と製薬会社が因果関係と責任を認め、損害賠償
- サリドマイド福祉センター(財)いしずえの設立
- 和解確認書
 - 厚生大臣は、本確認書成立にともない、国民の健康を積極的に増進し、心身障害者の福祉向上に尽力する基本的使命と任務を改めて自覚し、今後、新医薬品承認の厳格化、副作用情報システム、医薬品の宣伝広告の監視など、医薬品安全性強化の実効をあげるとともに、国民の健康保持のため必要な場合、承認許可の取消、販売の中止、市場からの回収等の措置をすみやかに講じ、サリドマイド事件にみられるごとき悲惨な薬害が再び生じないよう最善の努力をすることを確約する。

36



1974.10.14 東京

35

いしずえの設立(1974)

- サリドマイド被害者の福祉センター
 - 和解による損害賠償の一環
 - 基金 5億円

37

いしずえの主な事業

- サリドマイド被害者に対する事業
 - 健康管理
 - 相談・実態調査
 - 年金の給付
- 薬害防止に関する事業
- 障害者福祉向上のための事業
 - 「みんなのくるま」の開催
 - 補助具・補装具に関する情報提供等
- 相互交流・地域活動

38

繰り返された薬害

- 薬害エイズ
 - 対策の遅れ: 米国の2年4か月後
 - 1982.7 AIDS命名、米で血友病患者の感染者3例報告
 - 1983.1 米国で血液製剤の危険性指摘
 - 3 米国、加熱濃縮製剤を承認
 - 6 厚生省エイズ研究班を組織
 - 7 日本初の血液製剤によるエイズ患者の報告
 - 1985.7 厚生省、加熱製剤(第八因子製剤)の製造承認
 - 非加熱製剤の販売中止・回収をせず
 - 被告企業、ミドリ十字(当時)の社長、松下廉蔵
 - 有罪判決(大阪高裁)
 - 元厚生省薬務局長、サリドマイド訴訟の和解交渉の責任者

39

厚生労働省の庭に建立

誓いの碑

命の尊さを心に刻みサリドマイド、スモン、HIV感染のような医薬品による悲惨な被害を再び発生させることのないよう医薬品の安全性・有効性の確保に最善の努力を重ねていくことをここに銘記する。

千数百名もの感染者を出した「薬害エイズ」事件
このような事件の発生を反省しこの碑を建立した

平成11年8月 厚生省

40

被害者・家族の歩みと今

41

日本における 男女別のサリドマイド被害者数

生年	1959	1960	1961	1962	1963	1964	1969	計
男	6	16	34	88	24	2	1	171
女	6	9	24	74	23	2	0	138
合計	12	25	58	162	47	4	1	309

女の子が少ないのはなぜ？

学校と友だち

- 小・中学校時代
 - いじめ
 - 体育
 - 音楽
 - 遊び
- 支援者・ボランティアの取り組み
 - 被害児が外に出るように
 - 夏のキャンプ
 - サッカーチーム
 - スキーキャンプ

45

現在(中年期)の課題

- 健康問題
 - 最近新たに分かったこと: 血管や内臓の異常
 - 使いすぎによる二次障害
 - 肩や背中・腰の痛み、腕や指のしびれなど
- 生活上の問題
 - 親の介護
- 就労問題
 - リストラ
 - 若い頃のような無理がきかない
 - 健常者と同じように働けない

47

生まれたときの対応

- 被害児の家庭の多くは、様々な困難に
 - 産科医の対応 「どうしますか？」
 - 闇のうちに「処置」された子どもがいた？
 - 親のショック
 - 周囲・家族からの言葉
 - 「血の汚れ」、「うちの家系にはいない」
 - 離婚など家庭崩壊も
 - 子育ての決意
 - 病院探し

42

人並みのことができるように

- 被害児たちの幼児期
 - 手術
 - 結果として機能は改善せず
 - 日常生活動作、排泄自立の訓練、施設入所も
 - 義手の開発
 - 被害児には無用の長物
 - 就学問題
 - 普通学校入学を求め、親たちが運動
 - 養護学校、聾唖学校へすら入学させてもらえない例も

44

自立した大人へ

- 高校から進学・就職
- 生活の自立
- 結婚、家事、育児
- 現在: 中年期
- 老年期に向けて

46

最近分かってきた問題

- 血管の異常
 - 血管が細い
 - 血管の欠損
 - 血管の奇形
- サリドマイドの影響はあらゆる臓器・器官に起こり得る？
 - 突然死の例
 - 胆のう、盲腸がない被害者の存在が意味すること
 - あらゆる病気がサリドマイドに起因し得る
- 厚生労働科学研究(平成23~28年度)
 - 健診と生活実態調査

48

サリドマイドの復活

1965年 ハンセン病の症状緩和を報告

- 以後、ブラジルでサリドマイドの製造・販売を再開
- ブラジルで新たな被害児発生:120人以上

1998年 米国食品医薬品庁(FDA)、サリドマイドを承認

1999年 多発性骨髄腫に効果があることが報告される
以後、各国で主任

2008年4月 欧州医薬品庁(EMA)が承認

2008年10月 日本:厚生労働省が承認(多発性骨髄腫)

サリドマイドの復活と新たな被害

49

ブラジルでの新たな被害

1965-97年

- ・ 危険性に関する説明なしに医師から患者に薬が渡された例
- ・ 医師の処方なしで薬が買えるブラック・マーケットの存在
 - 第二世代:120人(サリドマイド被害者国際会議、東京、2004で、ブラジル・サリドマイド被害者協会が報告)

1997年

- ・ 妊娠可能な女性の服用を禁止
- ・ 処方時に説明と文書同意が必要

1998年以降

- 第三世代:少数だが発生

- ・ 例えば、2005-06年に3例報告(Schuler-Faccini: Birth Defects Research (Part A) 2007; 79: 671)

51

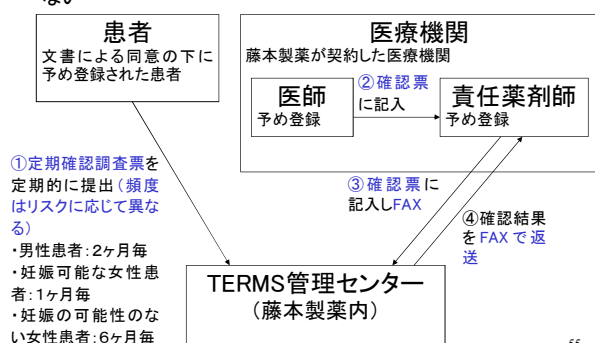
サリドマイドを男性が服用する場合も避妊が必要

- ・ 精子、精液へ移行
 - サリドマイドは、この薬を服用した男性(ヒト)の精液中に検出される。
 - ・ 精子の内部にもサリドマイドが認められる。
 - 雄ウサギにサリドマイドを長期間投与すると、その雄と交配した雌から生まれた子供に、先天的な異常が認められたとの報告がある。
- ・ 男性が服用する場合も避妊が必要
 - 性交渉の際にはコンドームを用いて精液を女性パートナーに触れさせないことが重要

53

TERMSにおける安全管理手順

以下の手順を満たさないと、サリドマイドが患者の手に渡らない



55

胎児の被害を防ぐために必要なこと

- ・ 患者さんが危険性を認識して、性交渉を避けるか以下の避妊法を用いること。
- ・ 妊娠可能な女性患者
 - 二重の避妊
 - ・ ビルなど女性による確実な避妊法
 - ・ 男性パートナーによるコンドームの使用
- ・ 男性患者
 - コンドームによる避妊

50

藤本製薬の安全管理システム (TERMS)

Thalidomide Education and Risk Management System

- ・ サリドマイドの危険性に関する教育の実施
 - 新たな被害を防ぐためには何よりも危険性に関する教育が重要
 - サリドマイドを扱う医師、薬剤師、患者(と家庭内の薬剤管理者)および卸業者に対し、サリドマイド薬害事件の歴史とこの薬の催奇形性について教育
 - リーフレットの配布、スライドを用いた患者への説明、教育用ビデオ(サリドマイド被害者が出演してメッセージを話す)の視聴など
- ・ 薬の流通・処方・調剤・使用を一元的に管理するシステム

54

① 患者の定期確認調査票

- ・ 患者自身がチェックして送付(医師・薬剤師には見せない)
- ・ 主な質問項目
 - 自宅での薬の管理(紛失/譲渡/自己廃棄をしない)
 - 妊娠回避(性交渉をしない/避妊)

② 医師の確認票

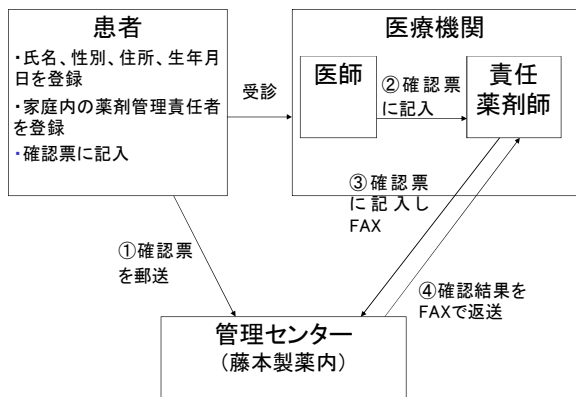
- ・ 医師が妊娠検査の結果をチェック
- ・ 医師が患者と一緒に理解度をチェック
 - 危険性、妊娠回避など

④ 薬剤師の確認票

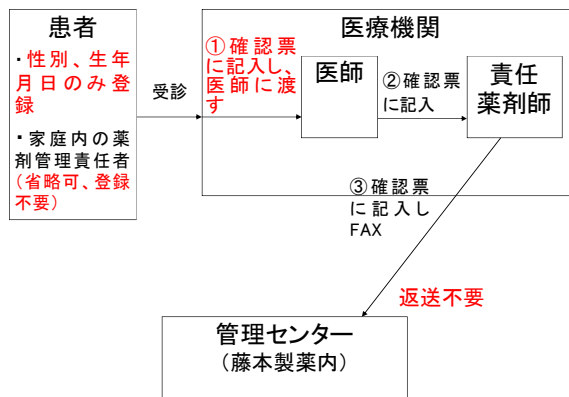
- ・ 院内処方限定
- ・ 処方医師と同じ病院の薬剤師が患者と一緒にチェック
 - 薬の保管

56

現在のサリドマイド安全管理手順



厚生労働省の改訂案(いずえは簡素化に反対！)



おわりに

サリドマイド事件は、被害者救済と被害の再発防止の両面から、今なお適切な対策を必要とする今日の問題である。

ありがとうございました

これからも、ご支援をよろしくお願いいたします。

薬害根絶デー サリドマイド被害の話

公益財団法人 いしずえ 理事 石井美和

1 まず、いつ、お母様がサリドマイド薬を服用されて、どのような障害をもって生まれてきたのでしょうか。

私の父は、外国航路の船員をしていました。母は父が帰国すると、よく父の乗る船に面会に行っていたようです。母が私を妊娠中にも、父の船に面会に行きました。そのとき、つわりで胃の調子の悪い母に父が、サリドマイドが含まれた胃薬を勧めて、母もそれを飲んだそうです。その後、私が誕生し、手に障がい(身体障害者手帳2級)がありました。

障がいは、手の肘から先が短く、曲がっていて親指が異常に小さいものでした。

2 その障害がサリドマイド薬によるものであることを知った経緯、裁判との関わりを教えてください。

私が誕生して、1年ぐらいいは何の障がいかわからなかったようです。香川県の身体障害者相談所に何回か通ううちに相談員から、教えられたり、新聞やテレビで知ったようです。

裁判との関わりは、国が認可した薬が障がいの原因と知り、国に対して責任を取ってほしいと思ったそうです。その後、全国に同じような障がいを持つ子供がいることを知り、その子供の親と連盟で裁判をすることにしたそうです。裁判には何回か、傍聴に行ったことがあります。また、裁判の進捗状況などを聞きに、大阪などのサリドマイド被害者の会合にも参加していました。

3 裁判も含め、ご両親の思いはどのようなものだったのでしょうか。

父は、進学や就職のことを心配したそうです。生活の基本動作など、どんなことでも障がいのない子供と同じように、自分でできるよう、きびしく接したようです。

また、障がいを持っているため、就労できない場合、一生の生活の保障をしてほしいと思ったそうです。

4 幼少期から学生時代にかけて、障害を抱えた中で、どのように生活されたのでしょうか。

エピソードなどありましたら、お聞かせください。

両親は、幼少の早い段階から、サリドマイド剤による障がいとわかっていましたので、保育所、幼稚園、小学校などの教育機関や近隣住民に、サリドマイド剤による障がいと公表して積極的に理解を求めています。そのおかげで、周囲の大人から差別をされることはありませんでした。また、両親の教育で、着替え、筆記、トイレなど日常生活の動作はほとんどできていましたので、

一般の学校に通いました。

小学校4年の時、それまで通っていた近隣の小学校から、障がい児が訓練を受けることができる特殊学級がある一般小学校に転校し、1年ぐらい指導する先生について訓練を受けました。その特殊学級には、私以外に手に障がいがある児童がいて、ボール投げやボートのオールこぎなど手の機能を向上させる訓練を受けました。

5 進学や就職など、高校卒業後の生活をお聞かせください。

大学進学は、高校の担任の先生の強い勧めもあって、県内の社会福祉学科のある4年生大学を受験し、合格しました。

大学生活は、社会福祉学科だったことで、私以外にも障がいを持つ学生がたくさんいて、私自身の障がいも理解されて、快適に送ることができました。

就職は、県内に施設などの社会福祉の就職がなく、施設のハードな勤務環境にも不安がありましたので、一般企業(金融関係)に就職しました。

そこでは、やはり障がいの壁があって、人と同じようにできないと注意されることがありました。今から、30年も前の話ですから、当時、障がい者に対する理解や配慮は進んでいなかったし、与えられた仕事はできて当たり前という風潮でした。その頃は、自分にプレッシャーをかけて、「健常者と同じように」とすいぶん頑張っていたと思います。

6 現在、サリドマイド薬によると思われる新たな障害が出てきている方が少なくないようですが、石井様はどのような症状が出てきているのでしょうか。

今、サリドマイド被害者は50歳を越えて、加齢に伴う2次障がい、筋肉が衰えたり、無理な姿勢を続けた結果、痛みがでたり、運動機能が損なわれて、さらに不自由になり、生活に深刻な影響が出ています。また、生活習慣病も健常者より、かかる割合が高いことがここ数年の実態調査で報告されています。

私自身は、腎臓の遺伝の病気の家系で、すでに腎不全が進み、9月から透析をしなければいけない状態です。透析をするため、左手に血管を太くするシャント手術を7月に受けました。しかし、受ける前、手に障がいがあるため、非常に難しいと言われました。障がいのため、手の血管や筋肉、神経が健常者とまったく違っていただけです。

手術も、普通1時間ぐらいで終わるものですが、4時間もかかり、当初、自己血管を使う予定が、人工血管を埋め込むものになりました。

術後は、指先がしびれ、肘も以前に比べて曲がらなくなり、手に力が入らなくなりました。また、左手の肘のあたりに、痛みが出るようになりました。日常生活に支障がでています。

7 石井様の被害は薬害によるものだったわけですが、薬害に対する思いをお聞かせください。

サリドマイドを含め、様々な薬害が起こっていますが、このような薬害を2度と起こしてほしくないと強く思っています。

現在、日本の医療の現場では、サリドマイドとそれに類似した薬が次々と出てきて使われています。サリドマイドを必要とする患者様もいらっしゃいます。

ですから、使ってはいけない、すべてを排除すべきと思いません。

しかし、薬は、病気を改善しますが、副作用もあります。管理と用法を守って、慎重に使用してほしいと思います。

8 石井様はいしずえの理事をされていますが、いしずえでの役割や取り組みについてお聞かせください。

公益財団法人いしずえでは、理事を務めています。いしずえでは、被害者を支援するプロジェクトはいくつあり、その中の生活を支援するプロジェクトを担当しています。

また、サリドマイド被害者には聴覚に障がいをもった方がいらっしゃいます。その方々の行事を担当しています。聞こえに障がいを持たれた方のために、講演などをパソコンでスクリーンに文字で表示するパソコン要約筆記者の経験があることから、いしずえのイベントなどで聴覚障害の方の情報保障を担当しています。

9 本日は、薬害について知ったばかりの大学生や新人薬剤師の方など、若い人がたくさん来ていて、薬害根絶のための運動をしていきたいと考えています。

薬害根絶の運動する上で、理解してほしいことや、是非こういう活動をしてほしいということがありましたら、お聞かせください。

サリドマイドは、40年前に薬を認可した国と販売した製薬会社で和解が成立し、社会的には解決したように見えます。しかし、被害者は、一生その被害を背負わなければならない、加齢に伴ってますます不自由な生活を強いられています。また、健康状態も悪い被害者が多く、不調と苦痛、そして医療費の負担も重くのしかかっています。

これは、サリドマイド被害に限らず、すべての薬害にいえることです。薬害被害者は、一生被害を背負って生きています。先ずこのことを理解して下さい。

今現在、薬害によって被った被害を償わせるために戦っている被害者団体もあります。その団体に、自分でできる限りの協力をしてほしいと思います。

HPVワクチン（子宮頸がんワクチン）の問題点

2015/8/24

薬害オンブズパースン・薬害対策弁護士連絡会

弁護士 関口正人

1 HPVワクチンとは

子宮頸がんの原因となるウイルス：ヒトパピローマウイルス（Human papillomavirus）のうち、16型と18型の感染を予防するワクチン

2 年表

- 2008年11月 「子宮頸がん征圧をめざす専門家会議」設立
- 2009年12月 サーバリックス（GSK）販売開始
- 2010年11月 公費助成「円高・デフレ対応のための緊急総合経済対策」
- 2011年 8月 ガーダシル（MSD）販売開始
- 2013年 4月 定期接種化
- 2013年 6月 『積極的』な接種勧奨の中止 ※定期接種は継続
- 2015年 8月 診療の手引き（日本医師会・日本医学会）発表

3 副反応

(1) 特徴

多彩な症状

- ・知覚障害・疼痛など（頭痛、関節痛、筋肉痛、視覚障害、しびれ等）
- ・運動障害など（脱力、筋力低下、歩行運動失調、不随意運動、けいれん等）
- ・認知・精神障害（学習障害、記憶障害、見当識障害、睡眠障害等）
- ・その他（全身倦怠感、発熱、紅斑、無月経等）

↓

複数の症状が時間の経過とともに進展・重層化

↓

- ・日常生活、学校生活、学業等に重大な支障
- ・治療・看護に経済的負担
- ・家族への負担

(2) ワクチンとの因果関係

- ・従来の疾患概念では説明できない病態の症例が多発
- ・ワクチン接種という共通性
- ・他に考えられる原因の不存在
- ・海外でも同様の症例

↓

HPVワクチン接種が原因

4 有効性の限界

- ・感染してもがん罹患はごく一部（90%は2年以内に陰性化、ほとんどが数年で消失）
- ・子宮頸がんの予防効果は実証されていない
- ・異形成抑制の持続期間も不確実（サーバリックス9.4年、ガーダシル6年）
- ・効果があるのは16型と18型のみ（子宮頸がん患者の50-70%）
- ・既に感染している人には効果なし

5 拙速な定期接種化

販売開始からわずか1年で事実上の定期接種化（公費助成+接種勧奨）

↓

任意接種で実績を積み十分な安全確認をすることなしに、一気に接種規模を拡大
10代前半の女子全員に接種する必要性に疑問

6 推進派医師とワクチンメーカーの癒着

(1) 子宮頸がん征圧をめざす専門家会議

- ・HPVワクチン承認審査中に設立
- ・活動目標…ワクチンの早期承認・公費負担・接種率向上、検診受診率向上
- ・幅広い層に対する多彩な活動で世論形成・政策決定に大きな影響力

↓

- ・ワクチンメーカー（GSK、MSD）から多額の寄付金受領
2013年に3,500万円、2014年に3,850万円…設立時から受領していた可能性大
- ・GSKの元ワクチンマーケティング部長が活動に参加

↓

『啓発活動』の形をとった、メーカーの資金による実質的な販売促進活動

(2) メーカーの研究関与

費用対効果に関する研究…定期接種化の根拠

↓

GSKの社員が身分を明かさず、大学非常勤講師の肩書で論文執筆

(3) 利益相反開示の『抜け道』

専門家会議から医師に対する講演料等の支払の疑い

↓

シャロン・ハンリー医師（専門家会議委員）のランセット誌投稿で明らかに

HPVワクチン(子宮頸がんワクチン)被害問題全面解決要求書

平成27年3月31日
全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会
代表 松藤美香

私たちは、HPVワクチン(子宮頸がんワクチン、以下単に「本ワクチン」といいます)被害問題の全面解決のため、次のとおり求めます。

1 責任の明確化

本ワクチンによる健康被害を引き起こした法的責任を認め、これに基づき下記事項を実施すること

2 責任に基づく被害回復の全面支援

本件の全ての被害回復のため

- (1) 本件による健康被害の全体像を把握するため、本ワクチン接種者全員の追跡調査、及び本ワクチンの接種者と接種対象年齢の非接種者を比較対照する疫学調査を実施すること
- (2) 本ワクチンによる健康被害の研究体制を構築し、被害者の健康回復のために有効と思われるすべての治療支援・救済を行い、最善の医療を提供する体制を整備すること(特に、高次脳機能障害などの症状に対する研究と治療に配慮すること)
- (3) 被害者が健康回復を目的とした治療に専念できるよう、医療費の無償化等の支援を行うこと
- (4) 本ワクチン副反応被害についての無理解・偏見が解消されるよう、国民に対して十分かつ正確な情報を提供し、被害者に不利益が生じないように、生活全般や教育、就業面も含めた施策をとること
- (5) 本件被害の全てを回復するにふさわしい賠償を行うこと

3 真相究明と再発防止

- (1) 本ワクチンを定期接種の対象から外すこと
- (2) 本件の原因を究明するための第三者機関を設置し、その原因究明作業を行うこと
- (3) 国の委員会における医薬品の安全性等の審議が、利益相反のない委員によって行われるよう制度を改めること
- (4) 本件による健康被害が今日まで救済されないまま放置されてきた経過に鑑み、予防接種健康被害救済制度の改善を早急に図ること

以上

HPVワクチン(子宮頸がんワクチン)被害問題全面解決要求書

平成27年3月31日
全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会
代表 松藤美香

私たちは、HPVワクチン(子宮頸がんワクチン、以下単に「本ワクチン」といいます)被害問題の全面解決のため、次のとおり求めます。

1 責任の明確化

本ワクチンによる健康被害を引き起こした法的責任を認め、これに基づき下記事項を実施すること

2 責任に基づく被害回復の全面支援

本件の全ての被害回復のため

- (1) 私たちが国に要求する①及び②の取り組みに全面的に協力すること
 - ① 本件による健康被害の全体像を把握するため、本ワクチン接種者全員の追跡調査、及び本ワクチンの接種者と接種対象年齢の非接種者を比較対照する疫学調査を実施すること
 - ② 本ワクチンによる健康被害の研究体制を構築し、被害者の健康回復のために有効と思われるすべての治療支援・救済を行い、最善の医療を提供する体制を整備すること(特に、高次脳機能障害などの症状に対する研究と治療に配慮すること)
- (2) 被害者が健康回復を目的とした治療に専念できるよう、医療費等の支援を行うこと
- (3) 本ワクチン副反応被害についての無理解・偏見が解消されるよう、国民に対して十分かつ正確な情報を提供すること
- (4) 本件被害の全てを回復するにふさわしい賠償を行うこと

3 真相究明と再発防止

私たちが国に求める第三者機関における原因究明作業に全面的に協力すること

以上



薬被連とは？

全国薬害被害者団体連絡協議会

1999.8.24「誓いの碑」除幕
その直後に
京都スモンの会の提唱で
被害者団体が
ひとつにまとまり
薬害根絶を願い
共同の行動を

薬害肝炎原告団
佐藤清子

9つの薬害、11の被害者団体

1. 公益財団法人いしずえ(サリドマイド)*
2. MMR(新3種混合ワクチン)被害児を救援する会*
3. 大阪HIV薬害訴訟原告団*
4. 東京HIV訴訟原告団*
5. スモンの会全国連絡協議会*
6. 京都スモン基金*
7. 薬害ヤコブ病被害者・弁護士全国連絡会議
8. 陣痛促進剤による被害を考える会*
9. 京滋筋短縮症の会→(改称)薬害筋短縮症の会
10. 薬害肝炎原告団
11. イレッサ薬害被害者の会

*1999.10.22結成時
6薬害7団体
今なお、くりかえさ
れる薬害
↓
現在9薬害11団体

“子供たちを被害者にも加害者にもしたくない”→ 3つの取組み

- 8月24日 **薬害根絶デー**→文科省・厚労省交渉及び実行委による集会等
- 10月か11月 **薬害根絶フォーラム**
2015.11.7 第17回薬害根絶フォーラム(大阪)
- 医歯薬看護系大学等への**講師派遣**

最初の大仕事=PMDAに被害者を

- 2004.4(財)医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構等→(独)医薬品医療機器総合機構(PMDA)へ
 - 2003年度に国と10数回の交渉
 - 運営評議会に3名の委員
救済業務委員会に2名の委員
審査安全業務委員会に2名の委員
- その他、各種検討会等に薬被連関係者が参画
例 肝炎対策推進協議会
薬害を学び再発を防止するための検討委員会
など

2010.4肝炎事件「最終提言」後の成果と課題

① 2011教材「薬害を学ぼう」

2010.4薬害肝炎事件検証検討委員会「最終提言」→教材・資料館検討会

↓

毎年、全国の100万人超の中3生に配布されるも授業実践は今後の課題

② 2013薬事法改正

難航する「第三者監視機関の設置」再生医療における救済制度は実現

③ 2013～薬害資料の保存と活用のための調査事業等(証言映像)の進行

お手元の資料にチラシが入っています

速報版 大阪人権博物館企画展示

薬害を語り継ぐ

～サリドマイド・スモン・薬害ヤコブ病～

薬害 1970年代～被害者の大行状
被害者の写真「薬害スモン全史第1巻」
及び講演会「薬害を学ぼう」より

薬害二法成立
1979.9.7

薬害永久根絶をめざして闘う被害者の過去と現在を資料、写真、映像、被害者の証言で伝える

2015年10月17日～12月19日

初の取組みに「注目！」

今後ご支援ください！

2015年度 学生活動報告

学生支援 向山修平

薬害根絶デー実行委員会参加者募集
 次回会議は 4月25日(金) 18時30分から
 今年のメインテーマは「子宮頸がん予防ワクチン」

◆薬害とは
 薬害とは「薬物による、精神科疾患やアレルギー疾患」以外に、薬物による身体的な被害に分類される。薬害には「副作用」「薬物依存」「薬物中毒」「薬物アレルギー」などが含まれる。また、薬物による身体的な被害には「薬物中毒」「薬物アレルギー」などが含まれる。また、薬物による身体的な被害には「薬物中毒」「薬物アレルギー」などが含まれる。

◆薬害根絶デーとは?
 2009年12月、厚生労働省が「薬害根絶デー」を制定し、毎年12月1日を「薬害根絶デー」として実施している。この日は、薬害根絶デー実行委員会が主催する「薬害根絶デー」が開催される。この日は、薬害根絶デー実行委員会が主催する「薬害根絶デー」が開催される。

◆子宮頸がん予防ワクチン問題とは
 子宮頸がん予防ワクチン問題は、2009年12月に厚生労働省が「薬害根絶デー」を制定し、毎年12月1日を「薬害根絶デー」として実施している。この日は、薬害根絶デー実行委員会が主催する「薬害根絶デー」が開催される。この日は、薬害根絶デー実行委員会が主催する「薬害根絶デー」が開催される。

◆薬害根絶デー実行委員会について
 薬害根絶デー実行委員会は、厚生労働省が「薬害根絶デー」を制定し、毎年12月1日を「薬害根絶デー」として実施している。この日は、薬害根絶デー実行委員会が主催する「薬害根絶デー」が開催される。この日は、薬害根絶デー実行委員会が主催する「薬害根絶デー」が開催される。

◆薬害根絶デー実行委員会連絡先
 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
 薬害根絶デー実行委員会
 電話：03-5561-1111
 電子メール：yakuzaigai@yakuzaigai.or.jp
 Facebook: Yakuzaigai

◆薬害根絶デー実行委員会主催のイベント
 薬害根絶デー実行委員会主催のイベントは、毎年12月1日を「薬害根絶デー」として実施している。この日は、薬害根絶デー実行委員会が主催する「薬害根絶デー」が開催される。この日は、薬害根絶デー実行委員会が主催する「薬害根絶デー」が開催される。

「サリドマイド薬害について」 2014年6月14日(土)
 講師: 増山ゆかりさん(薬害サリドマイド被害者)

薬害被害と制度を学ぶ 公開講座
 主催: 薬害根絶デー実行委員会
 講座テーマ: サリドマイド薬害 (2014.6.14.09:00~16:00)
 講師: 増山ゆかりさん(薬害サリドマイド被害者)

薬害根絶デーとは?
 2009年12月、厚生労働省が「薬害根絶デー」を制定し、毎年12月1日を「薬害根絶デー」として実施している。この日は、薬害根絶デー実行委員会が主催する「薬害根絶デー」が開催される。この日は、薬害根絶デー実行委員会が主催する「薬害根絶デー」が開催される。

今年の薬害根絶デーは、8月25日(月)です

薬害根絶デー実行委員会連絡先
 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
 薬害根絶デー実行委員会
 電話：03-5561-1111
 電子メール：yakuzaigai@yakuzaigai.or.jp
 Facebook: Yakuzaigai

「サリドマイド薬害について」 2014年6月14日(土)
 講師: 増山ゆかりさん(薬害サリドマイド被害者)



「薬害エイズ被害について」 2014年6月30日(月)
 講師: 後藤正善さん(元東京HIV訴訟原告)

薬害被害と制度を学ぶ 公開講座
 主催: 薬害根絶デー実行委員会
 講座テーマ: 薬害エイズ被害 (2014.6.30.18:30~20:30)
 講師: 後藤正善さん(元東京HIV訴訟原告)

薬害根絶デーとは?
 2009年12月、厚生労働省が「薬害根絶デー」を制定し、毎年12月1日を「薬害根絶デー」として実施している。この日は、薬害根絶デー実行委員会が主催する「薬害根絶デー」が開催される。この日は、薬害根絶デー実行委員会が主催する「薬害根絶デー」が開催される。

今年の薬害根絶デーは、8月25日(月)です

薬害根絶デー実行委員会連絡先
 〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
 薬害根絶デー実行委員会
 電話：03-5561-1111
 電子メール：yakuzaigai@yakuzaigai.or.jp
 Facebook: Yakuzaigai

「薬害エイズ被害について」 2014年6月30日(月)
 講師: 後藤正善さん(元東京HIV訴訟原告)



2014年8月25日 薬害根絶デー



2015年3月31日(火) 院内集会



あなたも HPV (子宮頸がん) ワクチンを打ちましたか?

子宮頸がんワクチンを学ぶ 公開学習会
主催：薬害情報一元行委員会

HPV、子宮頸がん ワクチンの危険性
子宮頸がんは女性特有の疾患でも発症する危険のある病気です。2015年11月からこの子宮頸がんを予防するHPVワクチンが導入され、多くの女性が接種しています。このワクチンが、通常のHPVワクチンとは異なり、2013年11月時点で既に万人の接種記録が厚生労働省に報告され、2万人以上が接種したことが明らかになっています。接種後、多くの女性が副作用に苦しんで、中には重度な副作用に苦しんでいる方も多くいます。あなたも副作用に苦しんでいる方もいるかもしれません。

当日の流れ
1 薬害の電子上映
2 薬害食のお話
3 弁護士による説明
4 薬害情報一元のご案内

学習会には、実行委員会のメンバーである、薬害四次学を学ぶこととした学生や、薬害から被害者問題に取り組んでいる弁護士、薬害情報一元のスタッフ、薬害情報一元のスタッフが参加します。会場に無料のHPV、子宮頸がん、ワクチンの問題を語る教材があり、多くの被害者として、この薬害問題に苦しんでいる方、自分の身に何が起きているのか、自分自身や自分の大切な人、大切な人や同僚が苦しんでいる方も多くいます。ぜひ、あなたもこの薬害問題について学びましょう。

申し込みは、薬害情報一元のホームページから可能です。お申し込みは、お申し込みの欄に「子宮頸がんワクチン」を記入してください。

薬害情報一元(薬害情報一元)のホームページ
http://www.yakuhai.com/

薬害情報一元(薬害情報一元)のFacebookページ
https://www.facebook.com/yakuhai.com/

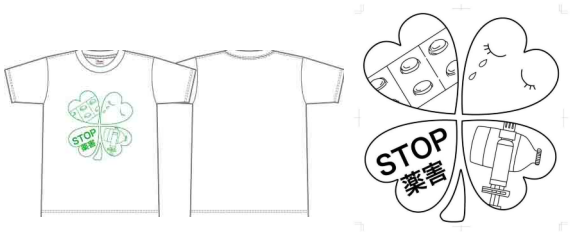
薬害情報一元(薬害情報一元)のTwitterページ
https://twitter.com/yakuhai.com/

子宮頸がんワクチンを学ぶ
公開学習会
二〇一五年四月二十五日(土)
明治大学(駿河台キャンパス)

子宮頸がんワクチンを学ぶ 公開学習会
二〇一五年四月二十五日(土)
明治大学(駿河台キャンパス)



Tシャツについて



行動提起

薬害根絶デー実行委員会

まずは

薬害被害を知ろう、学ぼう

(1) インターネットで

全国薬害被害者団体連絡協議会

<http://homepage1.nifty.com/hkr/yakugai/>

全国子宮頸がんワクチン被害者連絡会

<http://hpvv-danger.jp/>

(2) 学習会・交流会

→薬害被害者の方々を招いて直接お話を聞こう

そして

伝えよう

(1) 家族や友人に

(2) インターネットを介してより多くの人たちに

→ツイッター、フェイスブック、ブログなど



<https://www.facebook.com/yakugai824>

さらに！

訴えよう、行動しよう

黙っているは変わらない

だから

(1) 上記HPなどをチェックして私たちにできることをする

(2) 集会へ参加する…今日がその第一歩！

(3) 宣伝行動を行う…多くの人に知ってもらい、進めていくために

→ツイッター、フェイスブックなどでの投稿

本日17時30分から銀座マリオン前にて行われる街頭宣伝にぜひご協力ください！

以上

【参考資料】

- ・ 全国薬害被害者団体連絡協議会 <http://homepage1.nifty.com/hkr/yakugai/>
- ・ 薬害って何だろう？-薬害を考えるにあたって- | 厚生労働省
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/yakugai/>
- ・ 公益財団法人いしずえ <http://www008.upp.so-net.ne.jp/ishizue/>
- ・ 全国子宮頸がん被害者連絡会 <http://hpv-v-danger.jp/>
- ・ 薬害根絶デー 書庫 <http://www.gaiki.net/yakugai/ykd/index.html>



被害者を増やさないことを願って

厚生省が薬害エイズ事件を反省し、「誓いの碑」を建立して16年
残念ながら、その後も薬害は絶えません。

HPV（子宮頸がん）ワクチンを接種して、全身の痛み・震え・
歩行困難・記憶障害など様々な症状に苦しみ、
学校にも行けなくなった少女達があります。

薬害って
なんだろう？

自分自身や大切な人を守るために、
まずは、「知ること」から始めませんか。

8月24日は、薬害被害者・市民が、薬害根絶を訴える日です。
薬害根絶デーに参加をお願いします。

2015年8月24日（月）

プログラム

- 11:45 リレートーク（厚労省前）
- 13:00 碑の前行動（厚労省）
- 14:00 集会
薬害根絶活動の到達点と課題を考える
サリドマイド
HPV(子宮頸がん)ワクチン
・薬被害報告、薬害弁連報告、行動提起
会場：日比谷図書文化館
下車駅 東京メトロ麹町線
- 17:30 有楽町 宣伝行動

情報は、Facebook ページで
お問い合わせは
yakugaikonzetu@gmail.com

参加費 無料

カンパにご協力ください

東京都民銀行東新宿支店 普通 4033589
薬害根絶デー実行委員会会計 中川素充
(もとみつ)

薬害根絶デー実行委員会

写真は昨年のリレートーク

東京都新宿区新宿 1-19-7 新花ビル 6F オアシス法律事務所内 TEL 03-5363-0138 FAX 03-5363-0139 Rev.4

2016年2月10日

薬害根絶デー実行委員会

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-19-7
新花ビル 6階 オアシス法律事務所内

TEL 03-5363-0138 FAX 03-5363-0139

E-mail: yakugaikonzetu@gmail.com

Twitter: @yakugai_konzetu

Facebook ページ

<https://www.facebook.com/yakugai824>